

小学館外国語辞典編集部編

英語

便利

辞典

英語の世界が広がる！
知る楽しさを味わえる
ハンデイクイックな英語情報百科

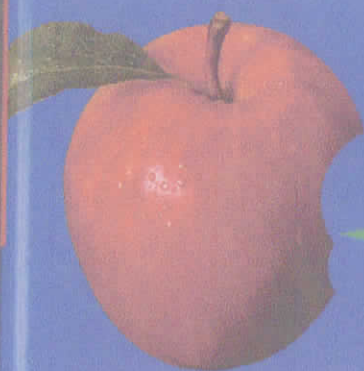
「英文電子メールの書き方」から
「アカデミー作品賞一覧」まで
英語のお助け情報・おもしろ情報を満載！
デジタル時代に即応した
最新の電子辞書案内・ネット情報も完備

2色刷

小学館

定価2,205円[本体2,100円]

Handy Factbook of English



Wow,
I can't believe it.

英語のリスニングは
発音力で決まる!

UDA式30音練習帳

鵜田 豊

Yutaka Uda

CD1枚付き

母音・子音の整理

母音の記号

[i]	日本語の「イ」と「エ」の中間の音。唇の上下、歯の上下の間に小指がようやく入るくらいの幅にして、「イ」と発音するつもりで言ってみよう。下記の [i:] を短くした音ではない。	it [it] knit [nít] lip [líp]
[i:]	日本語の「イー」とだいたい同じ音。唇を左右に引いて上下の幅を狭くして強く発音する。	eat [i:t] bee [bí:] meet [mí:t]
[e]	日本語の「エ」よりもやや口の開きを大きくして、はっきり「エ」と発音する。	egg [ég] pet [pét] tennis [ténis]
[æ]	[e] よりも少し大きく口をあげ、唇を左右に引き、のどの奥の方を緊張させて、「エ」と言ってみよう。日本語の「ア」と「エ」を同時に出した感じの音になる。	ant [ænt] hand [háend] trash [tráf]
[ɑ]	日本語の「ア」よりも口の中を広くして「ア」と発音する。のどに薬を塗ってもらうときの口の形と思えばよい。	hot [《米》hát] dollar [《米》dálər] pond [《米》pánd]
[ɑ:]	[ɑ] の音を長くした音。米音では、綴り字に r があるときは、[ɑ:] のあとに [r] の音がつくことが多く、英音では [r] の音を入れないのが普通。このような米英音での [r] 音の有無の違いは、斜体 [r] で示される(以下同)。	calm [ká:m] father [fá:ðər] spark [spá:rɪk]
[ʌ]	唇を広げるのではなく、狭めるのではなく、親指が入る程度の開き方で「ア」と言ってみると、だいたいこの音になる。	uncle [ʌŋkl] sun [sʌn] tongue [tʌŋ]
[ɔ]	[ɑ] を発音するときと同じように口の中を広くあけるが、唇は左右を少し中に寄せて、円い輪にするとこの音が出る。日本語の「オ」の唇をもう少し広げて「ア」と言ってみると、だ	dog [《英》dɔg] hot [《英》hót] want [《英》wónt]

たいこの音になる。

[ɔ:]	[ɔ] よりも唇の輪を小さくして、少し長めに発音する。あとに、あいまい音 [ə] がつくこともある。米音では、綴り字に r があるときは、[ɔ:] のあとに [r] がつくことが多く、英音では、[r] の音を入れないのが普通。	dog [《米》dɔ:g] door [dɔ:r] four [fɔ:r]
[u]	日本語の「ウ」と違って、唇を小さい輪にして発音する。日本語の「オ」の口の形をそのままにして「ウ」と言ってみると、だいたいこの音に近くなる。	book [búk] cook [kúk] took [túk]
[u:]	[u] を発音したときの唇を、もっと小さい輪にして、長めに発音する。	blue [blú:] too [tú:] you [jú:]
[ʌ]	[ʌ] を発音するときより力を抜いて、口の開き方をさらに狭めて、ほんやり「ア」と口の中で言ってみると、このあいまい音が出る。英語では弱く言う部分にこの音が非常に多く用いられる。	America [əmérikə] banana [bənéinə] tomato [təméitou]
[ɑ:]	[ɑ] の口の開き方をさらに狭めて、強く発音する。米音では、綴り字に r があるときは、[ɑ:] のあとに [r] の音がつくことが多く、英音では [r] の音を入れないのが普通。	burn [bɜ:rɪn] girl [gɜ:rɪl] word [wɜ:rd]
[eɪ]	[e] のあとに軽く [i] を添えた音。米音では [i] を添えずに [e] を少し長めにしただけで終わることもある。	aim [éim] cake [kéik] great [gréit]
[ai]	日本語の「ア」のあとに軽く [i] を添えた音と思えばよい。[a] が強く長く、[i] が弱く短いため、日本語の「愛」(アとイとが平均した長さで強さで発音される)とは全く違う。	I [ái] line [láin] my [mái]
[au]	日本語の「ア」のあとに軽く [u] (口をすぼめることに注意)を添える。日本語の「会う」とは終わりの部分が違っている。	out [áut] cow [káu] down [dáun]

- [oi] [ə] を強く長めに発音し、そのあとに弱く短く [i] を添える。したがって、耳に聞こえる感じは「オーイ」となる。
- [ou] [u] を発音するときのように、唇を丸くして「オ」を発音し、そのあとに、さらに唇を狭めて [u] を添える。米音では、[o] をそのまま伸ばして [u] を添えないこともある。
- [iə] [i] のあとに、あいまい音 [ə] がつく。米音では、綴り字に r があるときは、[iə] のあとに [r] がつくことが多い。
- [eə] [e] よりもやや口を広くして発音する「エ」のあとに、あいまい音 [ə] を軽く添える。米音では、綴り字に r があるときは、[eə] のあとに [r] がつくことが多い。
- [uə] [u] のあとに、あいまい音 [ə] がつく。米音では、綴り字に r があるときは、[uə] のあとに [r] がつくことが多い。
- [aiə] [ai] のあとに、あいまい音 [ə] がついた形。
- [auə] [au] のあとに、あいまい音 [ə] がついた形。
- 子音の記号**
- [p] [p] は日本語の「パ行」の子音、[b] は「バ行」の子音である。唇を閉じて口の中にためた息を、一気に勢いよく出せば [p] の音が出る。息の代わりに声(声帯の振動による)を出せば [b] の音になる。[p] が語頭においてアクセントがあるときは、特に強い破裂音となる。これが、日本語の「ペン」と英語の pen の発音とが違う点の一つである。

- oyster [ˈɔɪstər]
toy [tɔɪ]
voice [vɔɪs]
- oak [əʊk]
grow [grəʊ]
note [nəʊt]
- ear [ɪər]
here [hɪər]
tear [tɪər]
- air [eər]
care [kɛər]
hair [heər]
- poor [pʊər]
moor [mʊər]
tour [tʊər]
- fire [faɪər]
liable [laɪəbl]
tire [taɪər]
- flower [flaʊər]
our [aʊər]
sour [saʊər]
- pet [pét]
spring [sprɪŋ]
pub [pʌb]
bed [béd]

- [t] [t] は日本語の「タ行」の子音、[d] は「ダ行」の子音である。舌先を上歯の内側と歯茎の間につけて息を止め、急に舌先を離して強く破裂させる。[t] の息の代わりに声(声帯の振動による)を出せば [d] の音になる。[t] が語頭においてアクセントがあるときは、特に強い破裂音となる。これが、日本語の「天」と英語の ten の発音が違う点の一つである。
- [k] [k] は日本語の「カ行」の子音、[g] は「ガ行」の子音である。舌の後部を上げ、上あごの奥につけて息を止め、急に舌を離して破裂させると [k] の音になる。[k] の息の代わりに声(声帯の振動による)を出せば [g] の音になる。[k] が語頭においてアクセントがあるときは、特に強い破裂音となる。これが、日本語の「キー」と英語の key の発音とが違う点の一つである。
- [f] [f] は日本語の「フ」の子音とやや似ているが、違う点もある。下唇を上の前歯で押さえる形で、強く息を出して、下唇と歯の間で摩擦を起こすと [f] の音になる。[f] の息の代わりに声(声帯の振動による)を出せば [v] の音になる。
- [s] [s] は日本語の「サ行」の子音、[z] は「ザ行」の子音である。唇を突き出すようにし、舌先を上歯の裏に近づけて、そのすきまで摩擦するように息を出すと [s] の音になる。[s] の息の代わりに声(声帯の振動による)を出せば [z] の音になる。
- [θ] [θ] は上下の前歯の間に舌先をはさんだ形で息を出すと、そこに摩擦が起こって出る音である。「ス」のように聞こえるが、「ス」とは違う。[θ] の息の代わりに声(声帯の振動による)を出せば [ð] の音になる。
- [l] 日本語の「ラ行」は、舌先を上あごの前部にちよっと当てて出すが、英語の [l] はその舌先を
- tent [tént]
stone [stəʊn]
down [daʊn]
head [héd]
- cat [kæt]
ski [ski:]
good [gʊd]
big [bɪg]
- food [fu:d]
roof [ru:f]
voice [vɔɪs]
five [faɪv]
- on [sʌn]
house [haus]
zoo [zu:]
bronze [brʌnz]
- three [θri:]
tooth [tu:θ]
that [ðæt]
breathe [bri:ð]
- lion [laɪən]
little [lɪtl]

- もう少し前方、つまり前歯の歯茎から、前歯の裏あたりにつけて、声をその舌の左右から出すようにして発音する。[l]で終わる語は、舌先を前歯の裏につけたまま発音する。
- [r] 日本語の「ラ行」は、舌先を上あごの前部にちょっと当てて出すが、英語の[r]は、舌先を上あごに触れない程度に近づけて声を出す。日本語の「ラ行」とやや似ているが、舌が上あごに触れない点が違う。語の綴りの末尾にrがあると、米音ではこれを発音するが、英音ではふつう発音しない。米音のcar, parkなどの発音は、[ɑ:]の最後に舌先を上にあげるため、[ɑ:]のあとに、あいまいな母音に似た響きがする。
- [m] [m]は日本語の「マ行」の子音である。上下の唇を閉じて、声を鼻から出せば[m]の音になる。[m]の次に母音があれば、そこで口を開くが、[m]で終わるときは、唇は閉じたままになる。
- [n] [n]は日本語の「ナ行」の子音である。[m]では両唇で声を止めるが、[n]では、舌を上前歯の後ろにしっかりとつけて声を止め、鼻から声を出す。[n]の次に母音があれば、舌は上前歯の裏から離れるが、[n]で終わるときは、舌は上前歯の裏についたままになる。そこが日本語の「ン」と違う点である。日本語でも、「こんにちは」と言うときは、「こん」と言って、舌が上前歯の裏についたまま、次の「にちは」に移る。この「こん」の「ん」が英語の[n]である。[p]のところで、日本語の「ペン」と英語のpenの違いは[p]の破裂の強さにあるといったが、もう一つ違う点が、語尾の「ン」と[n]の違いである。英語のpenは日本人の耳には「ペンヌ」のように聞こえる。
- [ŋ] [ŋ]はその形を見てわかるように、[n]と[g]とを一つにまとめた記号である。日本語で「電気」と言うとき、「デン」で止めると、その「ン」は[ŋ]の音となる。

- doll [dɔ:l]
- red [réd]
- room [rú:m]
- car [ká:r]
- man [mæ:n]
- name [néim]
- summer [sʌmər]
- net [nét]
- moon [mú:n]
- tennis [ténis]
- ankle [éŋkl]
- sing [sig]
- thank [θéŋk]

- [h] [h]は日本語の「ハ行」の子音である。但し、日本語の「ヒ」は、英語のhe [hi:]の音とは違うので注意を要する。日本語の「ハ行」では、「ヒ」だけがのどを狭めて発音する傾向がある。
- [w] [w]は日本語の「ワ行」よりも、もっと唇を狭めて発音する。唇を狭めて、息の通路を狭くして「ワ行」を発音するとよい。
- [j] [j]は、記号は英語の綴りのjと同じだが、表す音は主に綴り字yで表す音で、日本語の「ヤ行」にあたる。記号と文字がかげ離れているので、注意を要する。この音は、母音の要素ももっているため、「半母音」ということもある。
- [ʃ] [ʃ]は日本語の「シャ行」の音と似ている。舌先を歯茎に触れない程度に近づけ、両頬をへこませ、口先をとがらせて、息の通路を狭めて摩擦させると、シューという音が出る。これが[ʃ]の音である。[ʃ]の息の代わりに声(声帯の振動による)を出せば[ʒ]の音になる。
- [tʃ] [tʃ]は2つの記号からできているが、このまま1つの記号で「チャ行」を表すとみてよい。日本語の「チャ行」と違う点は、「チャ行」の子音よりも息の通路をはるかに狭めて発音することである。口先をとがらせ、舌を上あごに接近させ、極端に狭くした通路から、強く「チュ」の音を出せば[tʃ]の音になる。[tʃ]の息の代わりに声(声帯の振動による)を出せば[dʒ]の音になる。
- [tr] [tr]は舌先を[t]の位置にして、続けて[r]の音を息で出す。[t]の代わりに声(声帯の振動による)を出せば[dr]の音になる。[t]と[r]および[d]と[r]とを離さずに1つの音のつもりで出す。[tr]も[dr]も語末にすることはない。

- hat [hæt]
- hit [hit]
- behind [biháind]
- wine [wáin]
- wing [wíg]
- awake [əwéik]
- yacht [ját]
- you [jú:]
- young [júŋ]
- she [ʃi:]
- dish [díʃ]
- garage [gərá:ʒ]
- usual [jú:zuəl]
- church [tʃú:rtʃ]
- pitch [pítʃ]
- just [dʒʌst]
- bridge [brídʒ]
- tree [tri:]
- patrol [pətróul]
- dream [dri:m]
- syndrome [síndroum]

[ts] [ts] は [t] の口の形が一瞬にして [s] の口の形になり、破裂すると同時に摩擦が起こる。
 [dz] [t] と [s] および [d] と [z] とを離さずに1つの音のつもりで、それぞれ [ツ], [ヅ] と出す。[ts] も [dz] も語頭にくることはない。

cats [kæts]
 facts [fækts]
 friends [fréndz]
 heads [hédz]

アクセントの見分け方

1. 語尾で判断する場合

(1) 次の語尾にはアクセントがある

- ade arcáde, inváde, paráde, persuáde
 (▶ 例外: céntigrade, cómrade, década など).
- ate (2音節の動詞) créate, debáte, reláte, transláte (▶ 2音節の名詞, 形容詞はほぼ語頭にある: clássmate, private).
- ay (主に動詞) betráy, deláy, displáy, portráy.
- ceed excéed, procéd, succéed.
- ceit [-ceipt] concéit, decéit, recéipt.
- ceive [-ieve, -ief] recéive, believe, relief.
- ee [-een] agrée, degréé, employée, betwéén, fiftéén (▶ 例外: cóffee, commíttee).
- eer caréer, enginéer, pionéer, voluntéer.
- ent (主に動詞) consént, invént, prevént.
- ere adhére, interfére, persevére, sincére (▶ 例外: -sphere で終わる語: átmosphere など).
- ese Japanése, Chinése, Portuguése.
- esque grotésque, picturésque,

Romanésque.

- ette cigarréte (▶ 例外: ómelette).
- ey (主に動詞) convéy, obéy, survéy.
- ide (-cide 「…殺し」は除く)
 beside, collide, decide, devide, subsíde.
- ine [-ene] (主に i の発音が /ai/, /i:/ のもの) combine, defíne, machíne, obscéne.
- que antíque, techníque, uníque.
- ly (主に動詞) applý, implý, replý, supplý, relý (▶ 例外: múltiply).
- oo [-oe] bambóo, canóe, kangaróo, shampóo (▶ 例外: cúckoo).
- oon ballóon, cartóon, racóon, salóon, typhóon.
- oy (主に動詞) annóy, destróy, emplóy, enjóy.
- ute (2音節) acúte, dispúte, minúte (形), salúte.

(2) 以下は直前の音節にアクセントがある

- 子音字2個 + al abnórmaal, etérnaal, méntaal.
- cracy aristócracy, demócracy (▶ crat は語頭型).
- eon lúncheon, Pántheon, pígeon,

- súrgeon.
- graphy bíography, géography, photógraphy.
- ia Ásia, Austráalia, cafetéria, encyclopédia.
- ial [-ual] áctuaal, esséntiaal, matériaal, sóciaal.
- ian [-ean] históriaan, Mediterraánaan, magiaaán, politiciaan (▶ 例外: Europaean).
- iar [-ior] familiaar, júnior, supérior.
- ible [-igible] póssiblaa, sénsiblaa, intélligiblaa.
- ic [-ical, -ics] artístic, mathematícs [-ical], téchnicall (▶ 例外: Árabic, arithmetíc (名), Cáholic, lúnatic, pólitic(s), rhétoric).
- ient [-ience, -iency] áncient, cónscieñce, expérience, obédieñce, sufficieñcy.
- ify idéntify, módfify, quálify, sígnify.
- ion [-sion, -cion, -tion] attéñtion, impresseñtion, invasión, opíñtion (▶ 例外: télévisiion).
- ious [-eous] górgéous, harmóniious.
- ish (動詞・名詞) accómplish, distínguish; rádish (▶ -ish の形容詞は ▶ 4. 品詞の継承で判断する場合).
- ity [-ety] abíllity, necéssity, varíety.
- ium aquáriium, gymnásiium, rádiium.
- logy análogy, bíology, mythólogy, psychólogy.
- meter barómeter, thermómeter (▶ 「長さ」を表すときは主に語頭: céntimeter).
- omy anátomy, astrónomy, ecónomy.
- parthy antípáthy, sýmpáthy, teléparthy.
- rrow árrrow, bórrrow, sórrrow, tomórrrow.
- sive expéñsive, impresseñsive, pássive.
- 子音字 + tive dígestive, objéctive (▶ 例

外: adjective)

(3) 以下は2つ前の音節にアクセントがある

- 子音字 + al áñimaal, cápitaal, géñeraal, hóspitaal.
- ate [-ator] ádequaaate, commúñicaaate, óperaator.
- ance [-ant] (継承型でないもの) árrogaance, élephaaant, máintañcance (▶ 動詞などからの継承型は別: appliañce, endúrañce).
- cide géñocíde, insécticide, suícíde.
- ence [-ent] (継承型でないもの) áccídeñt, éxcéllañce, ínflueñce, móvemeñt (▶ 2音節語は直前: éssañce, páreñt, póteñt).
- ite (主に名詞・形容詞) áppetite, défíñite, fávorite, ópposite, sátellete.
- sis análysis, émphásis, hypóthésis (▶ 例外: díagnósis, oásis, thésis など).
- ute (3音節以上) ábsolúte, ínstitúte, súbsitúte (▶ 2音節語は語尾 ▶ 1. (1)).

(4) 次の語尾をもつ語は語頭にアクセントがある

- age áveraage, bággage, láñguage, márríage.
- crat búreaucraat, demócrat (▶ -cracy は直前型).
- gram anágram, kílogram, prógram.
- graph áutograph, phótograph.
- ile crócodile, frággile, hóstíle, júvéníle.
- itude áltítude, áttítude, mágnítude.
- some háñdsome, lónesome, trúbblesome.